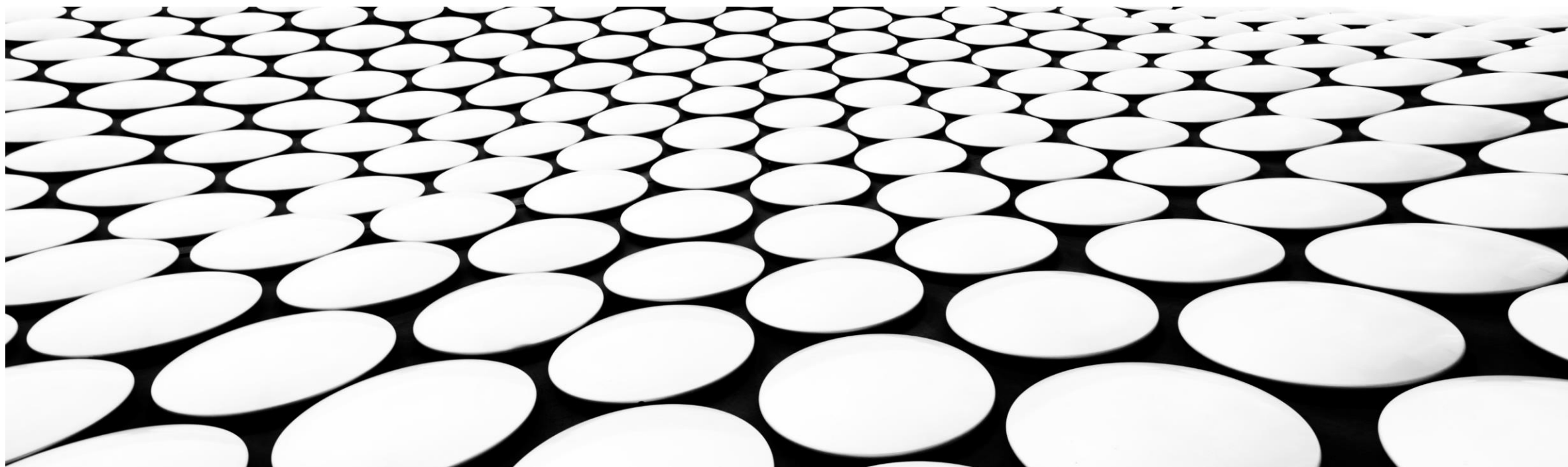


デジタル講座

QRコードの基礎知識と活用法



➤ QRコード基礎知識

QRコードは、2次元コードの一種であり、スマートフォンのカメラで読み取ることができます。QRとはQuick Response（クイック・レスポンス）の略で、情報を素早く読み取ることが特徴です。QRコードには、文字、数字、URL、ビジネスカード、電話番号、メールアドレス、地図の情報などを保存することができます。

◆ QRコードの読み取り方法

QRコードを読み取るには、スマートフォンのカメラでQRコードを読み取る専用のアプリを使用する必要があります。アプリによっては、QRコードを読み取る際に音声案内や振動機能が搭載されているものもあります。

ChatGPTによる解説

- QRコードの歴史
- バーコードとの違いは
- どんな所で活躍しているの
- 自分でも作れるの



➤ QRコードの歴史

今や世界中で使われているQRコードの技術は日本の会社で日本人が開発した事をご存知ですか？

QRコードがない時代、デンソーの製造工場の現場では部品をバーコードで管理していた。だが、部品管理のためにバーコードを10個ほど並べて読ませていたことから、非常に作業効率が悪かったことと、現場の作業員から「疲れる」との不平不満が挙がり、併せて「バーコードより多くの情報を盛り込めるコードを作って欲しい」という要望が出た。それに応えるため、デンソーウェーブ（開発当時はデンソー）開発部門に所属していた原昌宏により1992年から新たなコードの開発がスタートした。

QRコードは今や、デジタル決済にも欠かせなくなっていますが当初はあまり普及もせず、ここに来るまでは多くの苦労もあったようで特許権者のデンソーウェーブは、まずはQRコードが普及するよう敢えて特許をオープンにすることとし、規格化された技術に対して特許権を行使しないと宣言しているとのこと。

➤ バーコードとの違いは

バーコード（barcode）は、縞模様状の線の太さによって数値や文字を表す認識子の一種である。仕組みとしては、数字・文字・記号などの情報を一定の規則に従いコードに変換している。

QRコードとの違いは圧倒的な文字数である。バーコードは体系的にコード規約化ルールに則り規則に従いコード化されているがQRコードはコード規約は特に無く、QRコードのルールに則り自由な内容で作成が可能となっている

読み取りに関しては

バーコードは専用の読み取り機が必要（スマホでも可能）

QRコードはスマホの既存カメラ機能で読取が可能で普及しているのが特徴

➤ どんな所で活躍しているの

既に世界各国で使用されています。

中国でのデジタル決済を推進した立役者でもあり、今や世界中で使用されている
シェアサイクル、飲食店メニュー、様々なチケット（交通、コンサート、イベント）
Line交換、工場での在庫管理、コインロッカー、入退室管理、ワンタイムパスワード管理

ビジネスカードやチラシ、ポスターなどの印刷物に掲載されることが多く、Webサイトにリンクすることができます。また、飲食店では、メニューにQRコードを配置しスマートフォンで読み取ることで注文を手軽に行うことができます。さらに、商品の詳細情報やサービスの案内、電子チケットやポイントカードとしても利用することができます。

➤ 自分でも作れるの？

自分自身で作り込むのは流石に難しいですが
自動作成用のアプリやネット上にQRコード無料作成プログラムが公開されています。
「QRコード 作成」で検索して見て下さい。
入力文字をQRコード化して画像としてダウンロードできるようになります。
作成無料、読取り装置多数、汎用性抜群の仕組みであります。

QRコードの貢献度としてはノーベル賞候補では無いのかなと感じています。